

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：情報メディア学科

資格：准教授

氏名：株本 訓久

研究分野	研究内容のキーワード
科学史, 科学技術社会論, 博物館学	日本天文学史, 科学コミュニケーション, 生涯学習
学位	最終学歴
修士(教育学), 学士(教養)	武庫川女子大学大学院 家政学研究科 被服学専攻 博士課程 単位取得満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例

1. AL (Active Learning) の実践	2018年04月～現在	情報メディア学科1年次必修科目「現代生活学への招待」において、ワールドカフェ形式のグループディスカッションを導入し、ディスカッションの成果を講義内レポートとしてまとめさせるというALの手法を導入した。
2. AL (Active Learning) の実践	2016年4月～現在	担当しているすべての講義において、ほぼ毎回、課題を与えて、学生にグループディスカッションを行なわせると共に、グループの代表者にディスカッションの内容を発表させ、その内容に対して評価、助言をする、というAL的な手法を導入した。
3. PBL (Project/Problem Based Learning) の実践 (卒業基礎研究)	2014年08月～2017年08月	卒業基礎研究の一環として、学生が中心となって朝小サマースクール in 武庫川女子大学にワークショップ「つくってわかる!光のヒミツ」を企画・運営を行なった。
4. PBL (Project/Problem Based Learning) の実践 (総合演習 I)	2014年～2016年	明石市立天文科学館の協力の下、科学館の来館者数を増やすための様々な課題の解決を通じて、学生が主体的かつ協働的に学修する能力を高める指導を行なった。
5. PBL (Project/Problem Based Learning) の実践 (ゼミ指導)	2013年	ゼミナールにおいて、伊丹市立こども文化科学館職員からのヒアリングに基づいて科学館の現状を分析し、科学館の魅力を伝えることのできる動画を制作した。

2 作成した教科書、教材

1. 担当科目の補助教材	2012年～現在	学生が授業のポイントを理解しやすくするために、担当しているすべての講義において、プリントを配布している。プリントは、重要な箇所を空欄にし、学生にノートを取らせていく工夫をしている。
2. 講義内容の振り返り	2011年～現在	毎回、講義の最後に講義内容に関する小レポートを課すことで、学生に学習内容を確認させると共に、優れた内容のものを次回の講義の最初に紹介することで、学生の講義に取組む意欲を向上させるよう工夫している。

3 実務の経験を有する者についての特記事項

1. 講師 牧場暮らしの学習会「牧場でふたご座流星群を観よう!」講師	2019年12月21日	一般社団法人里馬主催の牧場暮らしの学習会「牧場で双子座流星群を観よう!」の講師を担当した。
2. 講師 星座教室	2019年08月08日	宝会館(宝塚市野上4丁目)で開催された夏休み子ども教室において、「星座教室」の講師として、星座早見盤の工作、夏の星座の探し方、Mitakaの体験等を指導した。
3. 講演 星空の文化に親しむ	2019年07月13日	キャンパスプラザ京都で開催された、第4回星空案内人資格認定講座において、「星空の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
4. 講師 星空教室	2018年08月29日	宝会館(宝塚市野上4丁目)で開催された夏休み子ども教室において、「星空教室」の講師として、月齢早見盤の工作の指導、月の模様の見立ての講演を行なった。
5. 講演 星の文化に親しむ	2018年06月09日	キャンパスプラザ京都で開催された、第3回星空案内人資格認定講座において、「星の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
6. 講演 岩橋善兵衛の八稜筒形望遠鏡	2017年10月01日	伏見中央図書館開館30周年記念事業講演会「日本で初の天体観望会は伏見(黄華堂)でおこなわれた!!」の「おたのしみ☆望遠鏡体験タイムと展示会」において、「岩橋善兵衛の八稜筒形望遠鏡」の講演と岩橋善兵衛の八稜筒形望遠鏡の展示、解説を行なった。
7. 講演 日本のガリレオ★岩橋善兵衛	2017年08月20日	ゼスト御池地下街 御幸町広場(京都市中京区下本能寺前町)で開催された、第2回銀河フェスティバル2017において、岩橋善兵衛の生涯と彼が日本の江戸時代の天文学において果たした役割等について講演した。
8. 講師 星座教室	2017年08月09日	宝会館(宝塚市野上4丁目)で開催された夏休み子ども教室において、「星座教室」の講師として、星座早見盤の工作、夏の星座の探し方、紙コップ分光器の工作等を指導した。
9. 講演 星の文化に親しむ	2017年07月08日	キャンパスプラザ京都で開催された、第4回星空案内人資格認定講座において、「星の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
10. 講師 西宮市大学交流センター共通単位講座「情報メディア論	2017年06月07日	西宮市大学交流センター共通単位講座「情報メディア論

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
報メディア論」		」(情報メディア学科提供オムニバス講座)で第九回「人々は宇宙からの情報をどう解釈してきたか」を担当し、「天文情報の解釈の歴史の変遷、宇宙と人との関わり」について講義した。
11. 講演 江戸時代の天文学と岩橋善兵衛の望遠鏡	2016年11月13日	黄華堂再発見プロジェクト実行委員会主催のイベント「江戸時代のベストセラー作家とシュリーレアリスムの画家一ふしみ散歩&観望会」において、江戸時代の天文学の概略及び岩橋善兵衛の生涯と彼が製作した望遠鏡の特徴に関する講演を行なった。
12. 講演 星の文化に親しむ	2016年07月09日	キャンパスプラザ京都で開催された、第4回星空案内人資格認定講座において、「星の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
13. 講演 武庫東小学校での天体観望会	2016年02月23日	尼崎市立武庫東小学校において、「星を見る会 in 武庫東小学校」と題する天体観望会(参加者児童及び保護者約60人)を開催した。
14. 講演 宇宙観の変遷	2015年11月28日	文化パルク城陽で開催された、第4回「星のソムリエ京都JOYO教室 楽しく宇宙を学ぶ講座Ⅱ～楽しく学びながらアートな作品作りをしよう～」において、「宇宙観の変遷」に関する講演を行なった。
15. 講演 江戸時代の天文学と岩橋善兵衛の望遠鏡	2015年11月21日	黄華堂再発見プロジェクト実行委員会主催のイベント「日本のガリレオ! 橋 南翁を迎える～ウォーキング&観望会」において、江戸時代の天文学の概略及び岩橋善兵衛の生涯と彼が製作した望遠鏡の特徴に関する講演を行なった。
16. 講演 星の文化に親しむ	2015年07月11日	京町屋「ちおん舎」で開催された、第7回星空案内人資格認定講座において、「星の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
17. 講演 京都教育大学桃山地区学校支援地域本部事業 第22回 ほしぞら教室	2015年03月06日	京都教育大学桃山地区学校支援地域本部事業の第22回ほしぞら教室に講師として講演を行なった。
18. 講演 武庫東小学校での天体観望会	2014年11月28日	尼崎市立武庫東小学校において、「星を見る会 in 武庫東小学校」と題する天体観望会(参加者児童及び保護者約100人)を開催した。
19. 講演 星の文化に親しむ	2014年10月18日	キャンパスプラザ京都で開催された、第7回星空案内人資格認定講座において、「星の文化に親しむ」に関する講演を行なった。
20. 講演 天文学の歴史	2014年09月27日	文化パルク城陽で開催された、第4回「星のソムリエ京都JOYO教室 楽しく宇宙を学ぶ講座～天文宇宙検定3級合格を目指して～」において、『天文宇宙検定3級』「第7章 天文学の歴史」に関する講演を行なった。
21. 講演 荒木俊馬の大宇宙の旅	2013年06月29日	加古川市立少年自然の家において開催された公開講座「宇宙講座」の講師として、日本における最初の天体物理学者の一人であり、子ども向けの天文書から大学レベルの研究書まで、数多くの天文書の執筆を通じて天文教育普及に取り組んだ荒木俊馬の生涯と彼の著書『大宇宙の旅』の内容について紹介した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 学芸員	2010年02月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 情報メディア学科教務委員	2017年04月01日2019年03月31日	情報メディア学科教務委員として、本学及び学科の教務に関わる業務に従事した。
2. 情報メディア学科共通教育委員	2014年04月01日2016年03月31日	情報メディア学科共通教育委員として、本学及び学科の共通教育に関わる業務に従事した。
3. 情報メディア学科広報入試委員	2012年04月01日2014年03月31日	情報メディア学科広報入試委員として、本学及び学科の広報入試に関わる業務に従事した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 天文学検定公式テキスト3級2019～2020年版	共	2019年06月30日	恒星社厚生閣	大朝由美子、株本訓久、富田晃彦、仲野誠、成田直、福江純、室井恭子、有限責任事業組合京都虹光房

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2. 天文学宇宙検定公式テキスト2級2019～2020年版	共	2019年06月30日	恒星社厚生閣	第7章天文学の歴史 (pp. 102-112) を担当。
3. FUSHIMI×黄華堂	共	2017年03月31日	「黄華堂」再発見プロジェクト実行委員会	大朝由美子、株本訓久、沢武文、富田晃彦、福江純、政田洋平、松村雅文、室井恭子、吉富進、有限責任事業組合京都虹光房 第8章天文学の歴史 (pp. 112-120) を担当。
4. 日本初！観望会の地一伏見一黄華堂guide book	共	2016年03月	「黄華堂」再発見プロジェクト実行委員会	「伏見区民活動支援事業補助金」及び「京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金」の助成を受け、日本で初めて天体観望会が開催された橘南谿の別宅「黄華堂」及び橘南谿の業績を紹介するための小学生向けのガイドブックを作成した。ガイドブックは、伏見区内の全小学校等に配布した。
5. JOYO Planetarium Guide Book	共	2016年03月	公益財団法人城陽市民余暇活動センター	「伏見区民活動支援事業補助金」及び「京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金」の助成を受け、日本で初めて天体観望会が開催された橘南谿の別宅「黄華堂」及び橘南谿の業績を紹介するためのガイドブックを作成した。ガイドブックは20,000部を印刷し、伏見区内の全小中学校、関西の科学館や文化施設に配布した。
6. 日本文化事典	共	2016年01月18日	丸善出版	文化パルク城陽プラネタリウム地域活性化実行委員会委員として、プラネタリウムの魅力を発信するためのガイドブックを作成した。
7. 天文学大事典	共	2007年06月	地人書館	「新幹線」、「時計」、「軽自動車」に関する項目について執筆した。 「新幹線」では新幹線の開設に至る社会情勢、及び導入された新技術、リニア中央新幹線計画について、「時計」では日本への機械時計の伝来から近代時計産業の形成過程について、「軽自動車」では国民車構想から現在に至るまでの自動車産業の歴史について解説した。
8. 星空の遊び方	共	2002年10月	東京書籍	編集主幹 山田卓、編集幹事 池内了他4名、分野別編集委員 池内了他16名、製作編集委員小林修二他5名、執筆者 青木勉、株本訓久他128名 『天文学大事典』は、130名の天文学者及び天文普及教育関係者が、約5,000項目の天文学用語を解説した本格的な大事典である。事典は、天文ファンから天文教育普及関係者までの幅広い層を対象に、最先端の天文用語から天文学の分野で一般的に使用されている星座名や星の固有名までの幅広い天文学のすべてを網羅した内容となっている。
9. 新城文庫目録	共	2000年10月	新城文庫研究会、全93頁	福江純編著、有本淳一、粟野諭美、株本訓久、坂元誠 本書は月や太陽からブラックホール、ビッグバン宇宙論に至るさまざまな天文現象を、最新の現代天文学の研究成果に加え、天文学史や天文民俗学といった多様な切り口から分かりやすく解説した天文学の入門書である。そのうち、「月の模様がどのように見られてきたのか」ということに関する民俗学的内容、惑星の動き、球状星団の特徴、天の川の見立てや天の川の実態が解明されていく歴史的な過程に関する内容などの執筆を担当した。
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 岩橋家によって製作された3点の小型一閑張望遠鏡の発見 (査読付き)	単	2020年04月28日	『科学史研究』第3期第59巻293号 (日本科学史学会)、pp. 18-36	新たに発見された小型一閑張望遠鏡3点を、これまでに岩橋善兵衛 (1756-1811) を祖とする岩橋家の製作と確定された望遠鏡と比較することで、製作者及び製作年代を解明した。また、日本最初の特許訴訟とも言われている四代目善十郎が先代の弟子を訴えた事件についても言及した。
2. 日本のガリレオ！岩橋善兵衛の望遠鏡	単	2018年12月	『月刊うちゅう』第35巻第9号、大阪市立科学館、4-9頁	日本のガリレオ岩橋善兵衛の生涯と活動、最近、発見された善兵衛製の望遠鏡を中心とした善兵衛研究の動向について紹介した。
3. 岩橋善兵衛の八稜筒形望遠鏡の発見 (査読付き)	単	2018年04月28日	『科学史研究』第3期第57巻285号 (日本科学史学会)、pp. 20-36	新たに発見された岩橋善兵衛 (1756-1811) 製作の八稜筒形望遠鏡を、これまでに善兵衛をはじめとする岩橋家の製作と確定された望遠鏡と比較することで

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 星座の名前と歴史(1)～ペガサス座とペガサス座～	共	2016年5月25日	『天文教育』第28巻第3号、天文教育普及研究会、pp. 15-18	、その特徴を明らかにすると共に、その歴史的意義を解明した。また、日本の最初の特許訴訟とも言える岩橋家の望遠鏡製作技術に関する訴訟問題についても言及した。 松村雅文、成田直、福江純、渡辺義弥、株本訓久、半田利弘、服部完治 本稿では、著者の一人の疑問に対して展開されたメールの情報を基に、ペガサス座の表記と発音について考察を行なった。
5. 日本における最初の現代天文学の専門書(2)～Joseph Norman Lockyerの天文学書～	単	2015年11月30日	『天文教育』第27巻第6号(天文教育普及教育研究会)、pp. 14-32	本論考は、明治期から大正期にかけて、蘆野敬三郎、須藤伝治郎、新城新蔵、一戸直蔵らによって執筆された現代天文学の専門書の内容を調査し、当時の高等教育機関で行なわれていた天文学教育の一端を明らかにすることを目的とした合計5編から連載の第2編である。第2編では、明治最初期に出版されたJoseph Norman Lockyerの訳書に注目し、彼の略歴と業績、そして、訳書『洛氏天文学 上下』及び『初等教育・小天文学』の内容について紹介すると共に、彼の著書が日本の天文教育普及に及ぼした影響について明らかにした。
6. 日本における最初の現代天文学の専門書(1)～明治初期の日本における天文学書～	単	2013年05月25日	『天文教育』第25巻第3号、天文教育普及教育研究会	本論考は、明治期から大正期にかけて、蘆野敬三郎、須藤伝治郎、新城新蔵、一戸直蔵らによって執筆された現代天文学の専門書の内容を調査し、当時の高等教育機関で行なわれていた天文学教育の一端を明らかにすることを目的とした合計5編から連載の第1編である。第1編では、明治最初期に出版されたいくつかの天文書の内容について調査し、翻訳書を中心とした当時の天文教育普及出版の動向について概観した。
7. 鴨方町と日本の天文学	単	2012年03月	モノづくり研究—生活美学研究所モノづくり研究会報告書—(武庫川女子大学生活美学研究所)、第1巻	岡山県浅口市鴨方町にある国立天文台岡山天体物理観測所で行なわれている最先端の天文学研究及び、同敷地内に設置される予定の京都大学新天文台の3.8m望遠鏡の製造に関する新技術について紹介すると共に、浅口市内に残されている陰陽師安倍晴明の伝説を中心に、陰陽寮の職務を中心とした日本の天文学について解説することで、過去から現在、そして、未来に至る日本の天文学について概観した。
8. ガリレオ・ガリレイの生涯—ガリレイ裁判は科学と宗教の対立だったのか?—	単	2009年03月	『天文教育』第21巻第2号(天文教育普及研究会)、pp. 8-42	本論では、科学史研究者によって著された研究成果を基に、ガリレオ・ガリレイの生涯をたどることで、ガリレオの伝記に見られる伝説的な内容の真偽について検証するとともに、ガリレオの発見が持っていた意味、ガリレオの科学と宗教の捉え方、そして、ガリレオとカトリック教会との関係、さらにガリレイが宗教裁判で問われたこと、などを紹介し、ガリレイ裁判が単純な科学と宗教の二元対立ではなかったことを紹介した。
9. Observation of the First Gravitational Microlensing Event in a Sparse Stellar Field: The Tago Event.	共	2007年12月	Institute of Physics Publishing, "The Astrophysical Journal"	We report the observation of the first gravitational microlensing event in a sparse stellar field, involving the brightest ($V = 11.4$ mag) and closest (~ 1 kpc) source star to date. This event was discovered by an amateur astronomer, A. Tago, on 2006 October 31 as a transient brightening, by ~ 4.5 mag during a ~ 15 day period, of a normal A-type star (GSC 3656-1328) in the Cassiopeia constellation. Analysis of both spectroscopic observations and the light curve indicates that this event was caused by gravitational microlensing rather than an intrinsically variable star. Discovery of this single event over a 30 year period is roughly consistent with the expected microlensing rate for the whole sky down to $V = 12$ mag stars. However, the probability for finding events with such a high magnification (~ 50) is much smaller, by a factor of $\sim 1/50$, which implies that the true event rate may be higher than expected. This discovery indicates the potential of all sky variability surveys, employing frequent sampling by telescopes with small apertures and wide fields of view, for finding such rare transient events, and using the observations to explore Galactic disk structure and search for exoplanets.
10. 荒木俊馬の天文学普及活動(後編)	単	2006年11月	『天文教育』第18巻第6号(天文教育普及研究会)、pp. 15-22	荒木俊馬は、京都帝国大学宇宙物理学科において、新城新蔵とともに日本においていち早く天体物理学の研究に着手した理論天文学者であり、終戦後、大学教授を辞任し、京都府上夜久野村において隠棲生活を行っていた約8年間、天文教育普及研究、天文教育普及家として執筆業に専念していた。こうした荒木の活動を明らかにすることは、日本の天文学研

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11. 荒木俊馬の天文学普及活動（前編）	単	2006年07月	『天文教育』第18巻第4号（天文教育普及研究会）, pp. 21-25	<p>究や天文教育普及研究の動向を知る上で重要である。後編では、荒木の天文教育普及研究会、『天文教育』普及活動を中心に紹介した。</p> <p>荒木俊馬は、京都帝国大学宇宙物理学科において、新城新蔵とともに日本においていち早く天体物理学の研究に着手した理論天文学者であり、終戦後、大学教授を辞任し、京都府上夜久野村において隠棲生活を行っていた約8年間、天文教育普及研究会、『天文教育』普及家として執筆業に専念していた。こうした荒木の活動を明らかにすることは、日本の天文学研究や天文教育普及の動向を知る上で重要である。前編では、荒木の天文学研究活動を中心に紹介した。</p>
12. パラパラマンガを使った天文教材－「スター☆ハンパニー」の提案－	共	2006年03月	『天文教育』第18巻第2号（天文教育普及研究会）, pp. 20-25	<p>橋本末緒，株本訓久</p> <p>天体観望会では宇宙の空間的な広がりを中心に解説することが多く、宇宙の時間的な変化を感じてもらおうことがあまりない。ところで、宇宙は空間的な広がりを意味する「宇」と時間的な広がりを意味する「宙」という文字からなっており、そのどちらかが欠けても宇宙を十分に感じる、ということにならない。パラパラマンガを用いて、宇宙の時間的な変化を伝えられる天文教材「スター☆ハンパニー」を作成、その概要を紹介した。</p>
13. 高木公三郎から荒木俊馬への20通の書簡	単	2005年12月	『科学史研究』第44巻第236号（日本科学史学会）, pp. 203-224	<p>京都帝国大学理学士高木公三郎が、1938年10月から1941年9月にかけて、上海及び南京から同大学宇宙物理学科助教授荒木俊馬宛てに送った20通の書簡の全文である。高木は1938年10月、上海臨時海軍特務部から中国の新暦作成の委嘱を受けて上海に出張し、中華民国臨時政府及び中華民国維新政府の暦の作成業務に携わった。そのため、本資料は日中戦争中の日本人天文学者の活動を知らうる資料といえる。</p>
14. 天文学啓蒙書を用いた歴史研究	単	2002年07月	『天文教育』第14巻第4号（天文教育普及研究会）, pp. 78-84	<p>これまでケフェイド変光星の理論モデルである脈動理論は「1914年のシャプレーによる脈動理論の提唱、1917-19年のエディントンによる理論の数学的基礎付け」によって確立されたと考えられてきた。今回、1910-1940年に日本で出版された天文学普及書の中に記されたケフェイド変光星に関する記述内容を調査することで、日本における脈動理論の受容時期を明らかにし、脈動理論の確立時期に関する傍証を得た。</p>
15. 光害と天文台の移転	単	2002年05月	『天文教育』第14巻第3号（天文教育普及研究会）, pp. 63-68	<p>光害とは「都市の灯火で夜空の星が見えなくなる被害」（『広辞苑』）であり、現在では環境やエネルギーの問題としても認識されるようになってきた。こうした光害が日本で最初に問題となったのは、東京帝国大学附属東京天文台の三鷹村への移転と、京都帝国大学花山天文台の設立時においてである。当時の天文学者は天文台の移転や設立に際し、光害をどのように取り扱ったのか、ということを経験を踏まえながら解説した。</p>
16. 新城新蔵の迷信打破活動	単	2002年03月	『天文教育』第14巻第2号（天文教育普及研究会）, pp. 62-66	<p>京都帝国大学に宇宙物理学科を創設した新城新蔵は理論天体物理学研究や東洋天文学史研究に取り組み、中国古代天文学の起源に関する先駆的な業績を残した。そうした研究の一方で、新城は、丙午生まれの女性の悲劇をきっかけに、暦と関わり深い迷信の研究を行なった。そして、彼は、一つの迷信についてさまざまな解釈があり、それらが互いに矛盾している点を指摘することで、迷信の非合理性を示すという迷信打破活動に取り組んだ。</p>
17. 新城新蔵の変光星研究	単	2002年01月	『天文教育』第14巻第1号（天文教育普及研究会）, pp. 46-52	<p>新城新蔵の生涯と活動、そして、彼の宇宙進化論とケフェイド変光星の理論研究について、国際的な動向、さらに平山清次の研究と比較しつつ紹介した。特に、新城と平山の変光星の理論研究は、単に変光原因に関するモデルを提唱するために行なわれたのではなく、主系列星や変光星、そして連星系を含めた恒星の生成や進化、熱源を説明することができる一つの恒星進化論を提唱することを目的としてなされたことを詳しく論じた。</p>
18. 天文読書会編『天文』	単	2001年12月	『科学史研究』第40巻第220号（日本科学史学会）, pp. 219-227	<p>1999年秋、京都産業大学荒木雄豪名誉教授から京都大学宇宙物理学教室に寄贈された新城新蔵に関する資料一式『新城文庫』に収められている雑誌『天文（あまのはら）』の出版の経緯や内容について紹介した。特に雑誌に掲載された「京都帝国大学宇宙物理学科と紫金山天文台との関係に関する記事」や「後のグレゴリオ暦に変わる大東亞暦の調査につながる彼らの暦に関する記事」について、その背景についても詳しく紹介した。</p>
19. 科学史のすすめ—なぜ科学史をや	単	2001年09月	『天文教育』第13巻第5	<p>天文学の概論的な講義において、天動説から地動説</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
るのか—			号(天文教育普及研究会), pp. 21-24	へのパラダイム変換やガリレオの宗教裁判などが題材として用いられることがある。しかし、「天動説は宗教的な権威を背景に科学の発展を遅らせた」、また、「ガリレオは真理の追究のために宗教的な権威に戦いを挑んだ」といった、不適切な歴史認識に基づくものが多かった。本編では、これまで行なわれてきた天文学史に関する議論や、天文学史研究の目的や方法論について紹介した。
20. 新城文庫研究会編『新城文庫目録』	共	2001年06月	『科学史研究』第40巻第218号(日本科学史学会), pp. 104-106	株本訓久、横尾広光、吉田省子 1999年秋、京都産業大学荒木雄豪名誉教授から京都大学宇宙物理学教室に寄贈された新城新蔵に関する資料を整理し、作成された新城文庫研究会編『新城文庫目録』の内容について紹介した。さらに文庫資料のうち、田中館愛橘から新城への水沢緯度観測所の観測機器の調査報告や、上海で出版された雑誌に掲載された論文「日本の文化侵略」に対する対応についてなどを記した資料などの興味深い内容のものについて概略を示した。
21. 新城新蔵の銀河系概念形成過程(査読付)	単	2001年06月	『科学史研究』第40巻第218号(日本科学史学会), pp. 97-103	本研究の目的は、新城新蔵の銀河系と渦状星雲に関する概念の形成過程を解明することである。そして、新城の銀河系概念の形成過程を解明することは、日本における銀河系概念の形成過程を解明する上で重要な意義を有する。新城の銀河系概念はシャプレーとハッブルの見解に大きな影響を受けた。そして、このことは、アメリカの大型望遠鏡による観測研究の動向に依存せざるを得なかったという日本の観測天文学の限界を示している。
22. 平山清次のケフェイド変光星の理論研究—新城新蔵の研究との比較を中心にして—(査読付)	単	2001年03月	『科学史研究』第40巻第217号(日本科学史学会), pp. 12-23	本研究の目的は、平山清次のケフェイド変光星の理論研究を日本、そして国際的な研究の動向に位置づけることにある。平山、そして平山以前のケフェイド変光星の研究者新城新蔵の理論モデルは、ケフェイド変光星の脈動理論の確立期とされてきた1914年以降に発表された。彼らの理論モデルは、恒星の熱源と進化に関する理論を確立するという研究の過程で形成されたものであり、彼らはモデルを恒星進化論の証拠と考えていた。
23. 迷信バスター新城新蔵	単	2001年01月	『月刊うちゅう』第18巻第10号、大阪市立科学館	京都帝国大学に宇宙物理学講座を創設した理論天体物理学者新城新蔵の生涯、そして彼が取り組んだ層に関する迷信打破の活動を紹介した。
24. 平山清次の恒星進化論(査読付)	単	2000年03月	『科学史研究』第39巻第213号(日本科学史学会), pp. 10-19	平山清次は小惑星の族の研究で日本天文学史上もっとも高い評価を受けてきた。平山はまた、小惑星の族の研究以外に恒星捕獲説という恒星進化論の研究も行なっていた。平山の恒星捕獲説は太陽系形成を一般の恒星形成と同一視している点で、日本の恒星進化論研究者である新城新蔵の宇宙進化論と共通しており、さらに彼らがこうした進化論に基づいてケフェイド変光星の非脈動理論によるモデルを提唱していたことは興味深いといえる。
25. 竹田新一郎の理論天体物理学研究—恒星の熱源と進化に関する研究を中心にして—(査読付)	単	1998年12月	『科学史研究』第37巻第208号(日本科学史学会), pp. 206-212	竹田新一郎は、新城新蔵らと共に日本で最初に恒星進化論の研究に取り組んだ。竹田の指導者新城は、重力収縮説を恒星の熱源として採用したが、竹田は相対論に基づく物質消滅説を恒星の熱源として採用した。二人の違いは、1920-30年代における国際的な天体物理学研究の動向を反映したものである。そして、これらのことから、1930年代に日本において天体物理学の研究基盤が確立されつつあったといえることができる。
26. 日本現代天文学史における新城新蔵の役割(査読付)	単	1997年01月	『科学史研究』第35巻第200号(日本科学史学会), pp. 260-270	これまで新城新蔵は、京都帝国大学総長や上海自然科学研究所長としての業績、また中国天文学史研究の業績について評価されてきたが、現代天文学の研究者としては十分評価されていない。著者は新城に関する文献と新城の天文学研究論文を調査し、新城新蔵の天文学者としての業績は、京都帝国大学に宇宙物理学教室を創設し、理論天体物理学の研究を行なうことで、日本の天体物理学発展の基礎を築いたことであることを解明した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Convey the Pleasure of Astronomy to People Interested in History	共	2018年03月26日	Communicating Astronomy with the Public 2018 in Fukuoka	TAMAZAWA, Harufumi(KwasanObs. Kyoto Univ.), KABUOTO, Kunihisa. (MukogawaWomen's Univ.), WADA, Koichi. (The Astronomy Guide of Kyoto)
2. 日本における古代インドの宇宙観の普及	共	2016年8月21日~23日	天文教育普及研究会(於東北大学)	山道千賀子、株本訓久 本研究の目的は、所謂古代インドの宇宙観の原典と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
3. 新城新蔵が日本現代天文学の形成過程において果たした業績に関する実証的研究	単	2015年8月26日	ワークショップ新城新蔵研究（於京都大学人文科学研究所本館）	されるN. ミューラーの図が、日本で普及していった過程を明らかにすることにある。今回は図を最初に見た日本人は誰か、また図がはじめて天文書で紹介されたのは何時かについて報告する。 新城新蔵（1873-1938）に関して発表された学術研究についてレビューし、それを踏まえて、筆者がこれまでに発表した論文及び現在取り組んでいる研究について報告した。
4. 日本現代天文学の形成過程における新城新蔵の役割に関する実証的研究	単	2015年03月17日	「時の記念日」研究報告会（共催科学史学会阪神支部）	新城新蔵（1873-1938）に関して発表された学術研究についてレビューし、それを踏まえて、筆者がこれまでに発表した論文及び現在取り組んでいる研究について報告した。
5. クレイアニメーション「星になったオリオン」の製作	共	2014年5月31日	天文教育普及研究会中国四国支部集会	平成25年度情報メディア学科卒業研究で制作した、乳幼児が楽しめるギリシア神話を題材としたクレイアニメーション「星になったオリオン」の内容、今後の予定について報告した。
6. 聞き取り調査による新城新蔵の資料収集	単	2014年3月19日	日本天文学会2014年春季年会（於国際基督教大学）	本発表では、新城新蔵（1873-1938）の天体物理学における業績に関する科学史的研究において、聞き取り調査による資料収集が果たした役割について報告した。筆者は新城の天体物理学における業績を調査し、彼が日本の現代天文学の形成過程において果たした役割を明らかにする研究に取り組んできた。本発表では、新城と直接関わりのあった人物からの聞き取り調査で得られた貴重な証言について報告した。
7. 荒木俊馬の大宇宙の旅	単	2011年03月	第15回中之島科学研究所コロキウム（於大阪市立科学館）	日本における最初の天体物理学者の一人であり、子ども向けの天文書から大学レベルの研究書まで、数多くの天文書の執筆を通じて天文教育普及に取り組んだ荒木俊馬の生涯と彼の著書『大宇宙の旅』の内容について紹介した。
8. 新城新蔵の宇宙進化論の歴史的研究1	単	2010年10月	第4回中之島科学研究所コロキウム（於大阪市立科学館）	これまでに行なわれた天文学の歴史的研究の意義や目的、日本における現代天文学の歴史的研究の意義や目的、方法論について概観した上で、筆者が行ってきた新城新蔵を研究することの目的、そして、新城の生涯と研究活動について紹介した。特に新城がドイツ留学から帰国した後、京都帝国大学理工科大学物理学科に宇宙物理学講座を創設することになった経緯や、宇宙物理学講座創設にあたっての新城の理念について詳しく紹介した。
9. マイクロレンズによる増光現象VarCas06の分光観測	共	2007年03月	日本天文学会春季年会（於 東海大学）	野上大作、綾仁一哉、飯塚 亮、大石奈緒子、大西浩次、川野元 聡、株本訓久、川端哲也、衣笠健三、圓谷文明、内藤博之、鳴沢真也、藤井 貢 2006年10月31日に、岡山県の高胡氏がカシオペヤ座に新星状の天体を発見した。この発見を受け、研究グループは岡山天体物理観測所、美星天文台等でスペクトル観測を行なった。新星状の天体のスペクトルはA型の主系列星の特徴を示しており、この結果から今回の増光は新星現象ではなく、マイクロレンズ効果による可能性の高いことが明らかになった。発表ではスペクトルから示唆されるレンズ天体の性質に関しても議論した。
10. 天体を手動画する スター☆ハンパニー	共	2005年07月	第14回全国の天体観測施設の会（於 兵庫県立西はりま天文台公園）	株本訓久、橋本未緒 天体観望会では宇宙の空間的な広がりを中心に解説することが多く、宇宙の時間的な変化を感じてもらうことがあまりない。ところで、宇宙は空間的な広がりを意味する「宇」と時間的な広がりを意味する「宙」という文字からなっており、そのどちらかが欠けても宇宙を十分に感じる、ということにならない。パラパラマンガを用いて、宇宙の時間的な変化を伝えられる天文教材「スター☆ハンパニー」を作成、その概要を報告した。
11. 社会教育施設の宿泊イベントにおける天文教育	共	2002年03月	天文教育普及研究会近畿支部会（於 大阪教育大学天王寺分校）	株本訓久、坂元誠 加古川市立少年自然の家では、小学5年生から高校3年生を対象に、一泊二日の学習や天体観測を通じて、天文学に関する基礎的な知識や技能を修得することを目的としたイベント「アストロ・アドベンチャー」を自然の家職員2名及び野外教育指導員15名によって企画運営を行なっている。本発表では、本イベント実施によって得られる参加者及び指導者に対する教育効果や、本イベントの今後の課題について報告を行なった。
12. 新城新蔵の研究	単	2000年09月	日本科学史学会京都支部例会（於 同志社大学）	新城新蔵の生涯と活動、そして、彼の宇宙進化論とケフェイド変光星の理論研究について、国際的な動向、さらに平山清次の研究と比較しつつ紹介した。特に、新城と平山の変光星の理論研究は、単に変光原因に関するモデルを提唱するためだけではなく、あらゆる種類の恒星の生成や進化、熱源を説明する

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 専門学校における天文学史を用いた教育	共	2000年08月	天文教育普及研究会（於 群馬県立北毛青年の家）	ことができる恒星進化論を提唱することを目的としてなされたことを詳しく論じた。さらに新城文庫@京大についても紹介した。
14. 千住製絨所	共	2000年06月	日本産業技術史学会（於 けいはんなプラザ）	株本訓久、有本淳一 京都コンピュータ学院において2000年度開講の一般教育科目「自然科学史1」（半期2単位）受講生計90名に対して行なった科学史を用いた天文教育の実践報告である。講義では「科学史的内容に基づいて科学とは何か？を宇宙像の変遷を通じて考えていく」という科学史的思考方を重視した。講義に関する学生からの質問、意見から学生の科学観・科学史観、さらに理科基礎における科学史的内容の取り扱いについて議論した。
15. 近畿の繊維産業	単	1999年11月	我国産業技術の歴史的側面における体系的整備に関する調査研究専門部会（於 近畿通商産業局）	千住製絨所は、新政府の軍服や制服の国産化を実現するために、明治12年に設立された官営工場である。製絨所は明治21年に陸軍省の管轄となり、特に陸軍軍装に必要な布地類や毛織物等の生産及び管理を行なった。その一方で他官庁や民間からの製造依頼や技術指導にも対応しており、製絨所は国内の繊維産業の発展に大きな役割を果たした。今回は千住製絨所と陸軍の被服類を管轄していた陸軍被服廠との関わりを中心に報告した。
16. 陸軍被服廠史（2）	共	1998年06月	日本産業技術史学会年会（於 大阪市立大学文化交流センター）	日本の産業技術の歴史的側面における体系的整備に関する調査研究のケーススタディとして、大阪紡績の操業による近代紡績の勃興から、第一次世界大戦後の産業合理化運動や太平洋戦争中の繊維産業の動向、朝鮮動乱を契機とする「糸へんブーム」、ナイロンやアクリルなどの合成繊維産業の勃興、さらに昭和40年代のアパレル産業の急成長まで、繊維産業の発展について概説し、近畿地方の繊維産業の特徴についての分析を報告した。
17. 陸軍被服廠史（1）	共	1997年04月	日本産業技術史学会日本産業考古学会合同関西支部例会（於 武庫川女子大学）	株本訓久、三宅宏司 陸軍被服廠史（1）において、明治19年の被服廠創設から昭和20年の太平洋戦争終結までの陸軍被服廠の制度・組織の変遷を中心に報告した。今回は前回の報告を踏まえ、陸軍被服廠が創設されるまでの期間、すなわち明治19年までの間、陸軍の被服全般に関する業務を担当していた兵部省第五局、そして陸軍会計局の変遷と、陸軍の被服全般に重要な役割を果たすことになった国内洋服業、羊毛工業との関連を中心に報告を行なった。
18. 『天文月報』論説に見る日本の天文学普及動向 I	共	1996年10月	日本天文学会1996年秋季大会（於 水沢市文化会館）	株本訓久、有本淳一 陸軍被服廠は、明治19年の設立から太平洋戦争終結まで、兵士の生活に関するあらゆる製品を取り扱ってきた。被服廠の全体像を明らかにすることは、当時の被服産業の発達史を明らかにする上で、重要な意味を持つといえる。今回、森谷宏「陸軍被服本廠の役割と組織—第二次世界大戦期を中心として—」『文化財研究紀要』第9集（平成8年）及び防衛庁戦史編纂局編『陸軍被服廠』等を用いて、被服廠の沿革について明らかにした。
19. 天文学者としての新城新蔵（2）	単	1996年03月	日本天文学会1996年春季大会（於 神戸大学）	株本訓久、有本淳一 日本天文学会機関誌『天文月報』に掲載された論説について、分野別に分類し、その動向について検討した。『天文月報』は天文学普及を主目的として編集されており、掲載された論説は、当時の天文学普及の動向を示しているといえるといえる。今回は、1908年の創刊から1945年までの38年間についての調査を報告し、年代による変化や分野の変化、さらに日本の天文学社会の中心的な話題との関わりなどについて議論した。
20. 天文学者としての新城新蔵	単	1995年10月	日本天文学会1995年秋季大会（於 新潟大学）	新城新蔵のケフェイド変光星の理論研究について調査した。彼はケフェイド変光星の変光原因として、この当時棄却されつつあった連星仮説を採用した。新城がこの説を採用したのは、彼の「宇宙進化論」の証拠となると考えていたからである。そしてケフェイド変光星の脈動理論の研究者エディントンが『恒星の内部構造』（1926年）の中で新城の説に言及していることは、当時の変光星の研究動向を考える上で興味深いことといえる。
				新城新蔵は、京都帝国大学総長や上海自然科学研究所長としての業績や中国天文学史研究の業績についての評価がなされてきたが、京都帝国大学に宇宙物理学教室を創設し、日本で最初に天体物理学の研究を行なった天文学者としては、十分に評価されているといえない。そこで今回は、新城について記された文献や彼の天文学研究の論文を基に、彼の宇宙物理学教室における活動を中心に、新城の生涯と活動

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
				について報告した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 解説 天文学入門講座（8）太陽系の天体（3）太陽系小天体	単	2011年01月	博物館通信、第37巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
2. 解説 木星の縞模様がなくなった？	単	2010年12月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、木星の特徴的な縞模様が消えている状況、予測されている今後の縞模様の変化について解説した。
3. 解説 天文学入門講座（7）太陽系の天体（3）冥王星と準惑星	単	2010年10月	博物館通信、第36巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
4. 解説 はやぶさ、無事に地球に帰還！	単	2010年09月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、小惑星探査機はやぶさが、小惑星イトカワから地球に帰還するまでのプロセスについて解説した。
5. 解説 恐竜絶滅の原因は小惑星の衝突だった！	単	2010年06月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、恐竜絶滅の原因となった小惑星が地球に衝突した際にできた物質に関する詳細な研究結果について解説した。
6. 解説 天文学入門講座（6）太陽系の天体（2）惑星の動き	単	2010年04月	博物館通信、第34巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
7. 解説 オリオン座の形が変わる？ベテルギウスに超新星爆発の兆候	単	2010年03月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、オリオン座の一等星ベテルギウスに超新星爆発の兆候と考えられる現象が観測されていることについて解説した。
8. 解説 岡山天体物理観測所、岡山天文博物館オープン50周年	単	2009年12月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、岡山天体物理観測所の50年の歩みと今後の展望について解説した。
9. 解説 天文学入門講座（4）星の色と温度	単	2009年11月	博物館通信、第32巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
10. 解説 天文学入門講座（3）日食の話	単	2009年07月	博物館通信、第31巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
11. 解説 若田光一さん、国際宇宙ステーション長期滞在へ	単	2009年06月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、宇宙飛行士若田光一さんが日本人としては、はじめて国際宇宙ステーションに長期滞在することの意味について解説した。
12. 解説 天文学入門講座（2）星の等級	単	2009年04月	博物館通信、第30巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
13. 解説 世界天文年2009	単	2009年03月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体を観測してから400年を記念して定められた世界天文年について解説した。
14. 解説 天文学入門講座（1）星座の歴史	単	2009年01月	博物館通信、第29巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、天文学の基礎的な内容について連載で解説した。
15. 解説 ハッブル宇宙望遠鏡、地球を10万周！	単	2008年11月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、最終メンテナンスを終了したハッブル宇宙望遠鏡の今後の観測計画について解説した。
16. 解説 安倍晴明史跡めぐり 其の五	単	2008年10月	博物館通信、第28巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、浅口市内に残る陰陽師安倍晴明にまつわる史跡について連載で解説した。
17. 解説 NASAの火星探査機が火星の地表に水の氷を発見	単	2008年09月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、NASA（アメリカ航空宇宙局）の火星探査機が火星の地表の調査から水の氷が存在していることを発見したことについて解説した。
18. 解説 安倍晴明史跡めぐり 其の四	単	2008年07月	博物館通信、第27巻、岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、浅口市内に残る陰陽師安倍晴明にまつわる史跡について連載で解説した。
19. 解説 太陽系に未知の惑星Xが存在する？	単	2008年06月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のたより～天文博物館から～」のコーナーにおいて、神戸大学の研究グループが、コンピューターの計算結果から、太陽系に未知の惑星が存在する可能性を指

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
20. 解説 安倍晴明史跡めぐり 其の 三	単	2008年04月	博物館通信、第26巻、 岡山天文博物館	摘したことについて解説した。 岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、 浅口市内に残る陰陽師安倍晴明にまつわる史跡につ いて連載で解説した。
21. 解説 188cm望遠鏡、巨星のまわ りに褐色矮星を発見	単	2008年03月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のた より～天文博物館から～」のコーナーにおいて、岡 山天体物理観測所の188cm望遠鏡によって、巨星の周 りを回る褐色矮星が発見されたことの科学的な意味 について解説した。
22. 解説 月探査衛星「かぐや」打ち 上げ成功！	単	2007年12月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のた より～天文博物館から～」のコーナーにおいて宇宙 航空研究開発機構が打ち上げに成功した月探査衛星 かぐやが行なう観測の概要について解説した。
23. 解説 安倍晴明史跡めぐり 其の 二	単	2007年12月	博物館通信、第25巻、 岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、 浅口市内に残る陰陽師安倍晴明にまつわる史跡につ いて連載で解説した。
24. 解説 安倍晴明史跡めぐり 其の 一	単	2007年10月	博物館通信、第24巻、 岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、 浅口市内に残る陰陽師安倍晴明にまつわる史跡につ いて連載で解説した。
25. 解説 生命誕生に適した環境を持 つ惑星発見！	単	2007年09月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のた より～天文博物館から～」のコーナーにおいて、太 陽以外の恒星の周りを回る惑星の最新の研究によっ て、生命誕生に適した環境を持つ惑星が発見された ことについて解説した。
26. 解説 8月28日に皆既月食	単	2007年07月	博物館通信、第23巻、 岡山天文博物館	岡山天文博物館の季刊誌『博物館通信』において、2 007年8月28日に起こる皆既月食のメカニズム、見ど ころ等について解説した。
27. 解説 冥王星は準惑星！		2007年06月	広報あさくち、浅口市	岡山県浅口市の広報誌『広報あさくち』の「星のた より～天文博物館から～」のコーナーにおいて、太 陽系の定義が新たに定められたことによって、冥王 星が惑星から準惑星へと分類が変更されたことにつ いて解説した。
28. 解説 見れば長寿？南極老人星	単	2007年02月	広報いばら、井原市	岡山県井原市の広報誌『井原市広報』において、見 ることができれば、長生きすることができる、と言 い伝えられている南極老人星に関する解説記事を執 筆した。
29. 解説 星座の教	単	2006年10月	広報いばら、井原市	岡山県井原市の広報誌『井原市広報』において、現 在用いられている星座の教や領域がどのようにして 決定されたのか、ということに関する解説記事を執 筆した。
30. 解説 星座の故郷	単	2006年06月	広報いばら、井原市	岡山県井原市の広報誌『井原市広報』において、現 在用いられている星座の起源がどこであるのか、と いうことに関する解説記事を執筆した。
31. 解説 天文学者と教育「神田 茂 」	単	2000年05月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文学者神田 茂の天文教育普及における 業績を紹介した。
32. 解説 天文学者と教育「原田三夫 」	単	2000年03月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文教育普及家原田三夫の天文教育普及に おける業績を紹介した。
33. 解説 天文学者と教育「中村 要 」	単	2000年01月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文学者中村要の天文教育普及における業 績を紹介した。
34. 解説 天文学者と教育「野尻抱影 」	単	1999年11月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した星の文学者野尻抱影の天文教育普及におけ る業績を紹介した。
35. 解説 天文学者と教育「山本一清 」	単	1999年09月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文学者山本一清の天文教育普及における 業績を紹介した。
36. 解説 天文学者と教育「一戸直蔵 」	単	1999年07月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文学者一戸直蔵の天文教育普及における 業績を紹介した。
37. 解説 天文学者と教育「荒木俊馬 」	単	1999年05月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に 活躍した天文学者荒木俊馬の天文教育普及における 業績を紹介した。
38. 解説 天文学者と教育「新城新蔵 」	単	1999年03月	天文教育、天文教育普 及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文 学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
39. 解説 天文学者と教育「平山清次」	単	1999年01月	天文教育、天文教育普及研究会	活躍した天文学者新城新蔵の天文教育普及における業績を紹介した。
40. 解説 天文学者と教育「寺尾 寿」	単	1998年11月	天文教育、天文教育普及研究会	天文教育普及研究会回報『天文教育』の連載「天文学者と教育」において、日本の現代天文学草創期に活躍した天文学者平山清次の天文教育普及における業績を紹介した。
6. 研究費の取得状況				
1. 日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト	共	2016年07月	平成28年度伏見区区民活動支援事業補助金	日本初の天体観望会が開催されたという伏見区に存在していたと考えられる「黄華堂」及びそのオーナーである橘の足跡を地域住民とともにたどり、改めてその功績の今日的意義を探り、地域の文化力を高め、史実調査にとどまることなく教育機関、商店街等も巻き込んだ新たな地域コミュニティ形成を目指す。
2. 日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト	共	2016年07月	平成28年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金	「黄華堂」周辺をめぐるウォーキング等を開催すると共に、小学生向けの黄華堂ガイドブックの作成を行う。
3. 日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト	共	2015年07月	平成27年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金	「黄華堂」周辺をめぐるウォーキング等を行うワークショップを年2回実施し、黄華堂ガイドブックの作成を行う。
4. 日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト	共	2015年07月	平成27年度伏見区区民活動支援事業補助金	日本初の天体観望会が開催されたという伏見区に存在していたと考えられる「黄華堂」及びそのオーナーである橘の足跡を地域住民とともにたどり、改めてその功績の今日的意義を探り、地域の文化力を高め、史実調査にとどまることなく教育機関、商店街等も巻き込んだ新たな地域コミュニティ形成を目指す。
5. 平成19年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座型学習活動（浅口市立金光中学校第1学年の岡山天体物理学観測所及び岡山天文博物館の施設見学）	共	2007年06月	平成19年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座型学習活動（浅口市立金光中学校第1学年の岡山天体物理学観測所及び岡山天文博物館の施設見学）	
6. 平成16年度科学研究費補助金（奨励研究）研究課題番号16904001「新城新蔵の宇宙進化論形成過程に関する実証的研究」	単	2004年04月	平成16年度科学研究費補助金（奨励研究）研究課題番号16904001「新城新蔵の宇宙進化論形成過程に関する実証的研究」	
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2015年01月21日～2016年03月31日	文化パーク城陽プラネタリウム地域活性化実行委員会委員			
2. 2014年07月～2016年06月	天文教育普及研究会近畿支部役員 天文教育普及研究会 日本産業技術史学会 日本科学史学会 日本天文学会			